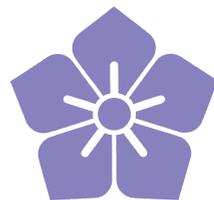


本堂建築の木材見学会

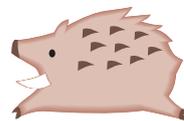


金澤山 円能院 福泉寺



<9号>

真言宗 智山派
円能院
川崎小田



本堂建立に当たりまして、檀信徒の皆様から沢山のご寄付をいただき、真にありがとうございます。昨年12月1日現在での納入総額は、3億6991万円となっております。報告申し上げます。心から御礼申し上げます。

昨年11月25日（土）、当院総代・世話人様、建築顧問・株式会社ユウ・コーポレーションより社長の小西敏治先生と小西淳花様、飛鳥建設より綿谷所長、本堂の設計を担当されている大野さん営業の高田さん住職妻、副住職一同で、三重県桑名市の小鳥建設を訪ねて、木材の細工



この見学で、素晴らしい本堂が出来上がることを一同全員が確信しました。

ご挨拶



新年を迎え、檀信徒皆様方のご健勝とご一家のご安泰を祈念いたします。昨年四月に着工いたしました本堂ならびに付属施設の新築工事は順調に進捗しておりますことをご報告するとともに、これら作業のため、皆様方のご来院に際しまして対応に失礼するとか、墓参にご不便をおかけしておりますこと深くお詫び申し上げます。

暖化による風水害の影響をはじめとして、虐待やいじめに関する事件が続いて発生しました。

この工事は、来春早々に終了する予定ではありますが、建築工事に続きまして境内の整備についても考慮しておりますので、ご諒承を賜りたくお願いいたします。

また、さまざまな公共事業に対する問題も指摘されているところですが、これらあらゆる問題は、急激な社会の変化、特にこれを促進してきた生活環境における機械化、ならびに情報化の普及など極めて刺激的な作用を惹き起こす要因となっていることでもあります。

昨今における社会問題に対して、われわれが認識を新たにして取り組まねば、容易に解決できるものではないと思うのであります。

昨年度を顧みすれば思うように進展しない国際情勢もさることながら、国内におきましても、温

平成十九年元旦

円能院住職 佐藤隆賢

上棟式

上棟式は平成19年3月25日（日）午後2時からを予定いたしております。

近年では珍しい本格木造建築の棟上という貴重な体験になりますので、ご多忙とは存じますが是非ご参集いただきたいと存じます。詳細は期日が近くになりましたら、改めてご連絡いたします。

真言宗のお正月

修正会
（しゅしようえ）
と
御七日御修法
（ごしちにちみしほ）



修正会

お正月には修正会のお勤めをします。昔、聖武天皇のころ、諸国の国分寺では、前年のいゝんな過ちを悔いて修正する法要から始まったといわれます。

一年間の内、知らず知らずにつくられた罪業を大晦日に、除夜の鐘を百八撞いて煩惱を打ちほらい新年を迎えます。煩惱を無くし、清しい気持ちで年を迎えるための反省の会です。

御七日御修法

京都の東寺では、国家の安泰、世界平和を祈つて、真言宗各派総大本山の管長と定額僧（じょうがくそう）といわれる真言宗全体から選ばれた僧によって、1月8日から14日までの一週間にわたって後七日御修法が執り行われます。この御修法は現在、真言宗の最高の儀式といわれ、千百有余年前には宮中で行われていた行事です。

そもそも御修法はもともと宮中の重要な正月行事として営まれてきまし

た。宮中では1月1日から7日まで執り行われていたものを、現在は7日の8日から始めますので後七日と呼びます。「宮中真言院後七日御修法」とか「真言院御修法」とも呼び、通称は「みしほ」と呼ばれています。

もともとは中国で唐の時代に真言宗の不空三藏が、皇帝の為に始めた例にならい、わが国でも弘法大師が大阿闍梨となつて、承和2年の正月8日から14日までの7日間、宮中において修法されました。これ以降、毎年恒例行事となつております。南北朝の動乱によって中断された時期もありましたが、宮中において連綿と厳修されてきた国家的行事の伝統を伝えていきます。

当院住職は、平成12年と16年に御七日御修法を勤めました。

建築期間中のお願い

建築工事が開始されますと、作業車の出入りや資材の保管のために境内狭隘となり、檀信徒の皆様にはご不便をおかけすることになります。特に彼岸会やお盆をはじめ、当院の年中行事も従来のように執行することが困難になりますので、工事期間中のご不便をご理解願います。

編集後記

年月が経過しても解決どころか、ますます混迷を深めるイラク問題、また周辺諸国がさまざまな対応を迫っても依然として反応を示そうとしない北朝鮮など、新年を迎えて一歩でも前進することを望むばかりである。

国内においても少年層に見られる異常な心理状態、これを脱却するためには、当事者ばかりでなく社会全体が関心をもって対処しなければならぬであろう。またマンション建設に見られる偽装問題、エレベーターの事故、公共事業に対する有識者の姿勢など、連日報道されているこれらの問題についても、すべては人為的なものであって、根源的な反省が重要であろう。

発行所

金澤山 圓能院 福泉寺
川崎市川崎区小田
1丁目25番12号
電話/044 (333) 4476
FAX/044 (366) 6972

発行人

佐藤隆賢